



2021年3月期
第 2 四 半 期 決 算 説 明 資 料

(2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日)

2020年11月27日

リズム株式会社
(東証一部 7769)

1. 第2四半期決算の総括

2. 今後の展開

3. 三社合併の概要

4. 再発防止策の取り組み

5. トピックス

(参考) 中期経営計画の概要

注：本資料中、特段の注記がある場合を除き、金額は切り捨て、年は事業年度(4月～翌3月)を表しています。

1. 第2四半期決算の総括

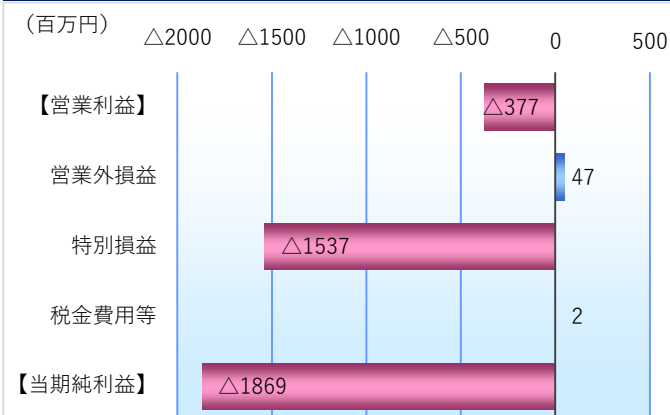
決算概況

(百万円)	2020/3月期			2021/3月期			累計 前期比
	Q1	Q2	累計	Q1	Q2	累計	
売上高	6,949	7,355	14,305	5,444	6,595	12,039	△2,265 △15.8%
国内売上	4,316	4,198	8,515	3,685	3,995	7,680	△835 △9.8%
海外売上	2,632	3,156	5,789	1,759	2,600	4,359	△1,430 △24.7%
海外売上比率	37.9%	42.9%	40.5%	32.3%	39.4%	36.2%	△4.3%
営業利益	15	△5	10	△286	△81	△367	△377
営業利益率	0.2%	△0.1%	0.1%	△5.3%	△1.2%	△3.1%	△3.2%
経常利益	101	△20	80	△213	△35	△249	△330
経常利益率	1.5%	△0.3%	0.6%	△3.9%	△0.5%	△2.1%	△2.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	71	△181	△110	△1761	△218	△1,979	△1,869
四半期純利益率	1.0%	△2.5%	△0.8%	△32.4%	△3.3%	△16.4%	△15.6%
1株当たり 四半期純利益 (円)	8.66	△22.02	△13.36	△213.25	△26.41	△239.67	△226.31
期末日為替レート (US\$=¥)	107.79	107.92	107.92	107.74	105.80	105.80	△2.12円
期中平均為替レート (US\$=¥)	110.94	107.57	109.26	107.57	106.81	107.19	△2.07円

主な利益増減要因

	当期計上額	前期比
【営業外損益】		
受取配当金	43百万円	△10百万円
雇用調整助成金	60百万円	+60百万円
受取賃貸料	160百万円	△7百万円
賃貸費用	70百万円	△10百万円
出向費用	52百万円	△7百万円
【特別損益】		
投資有価証券売却益	0百万円	△53百万円
減損損失	0百万円	△12百万円
早期退職関連費用	1501百万円	+1501百万円

四半期純利益増減内訳



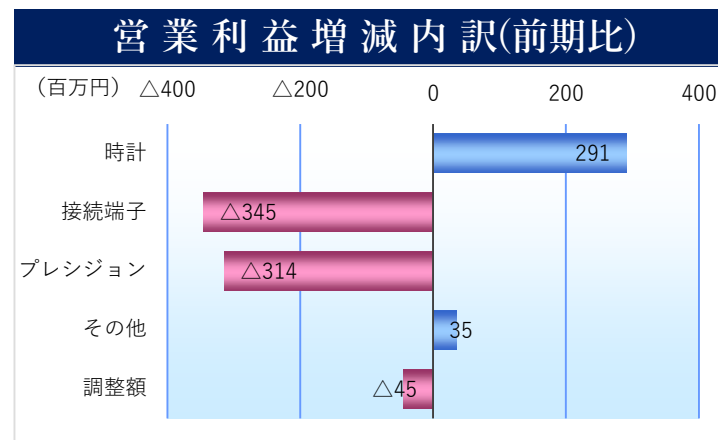
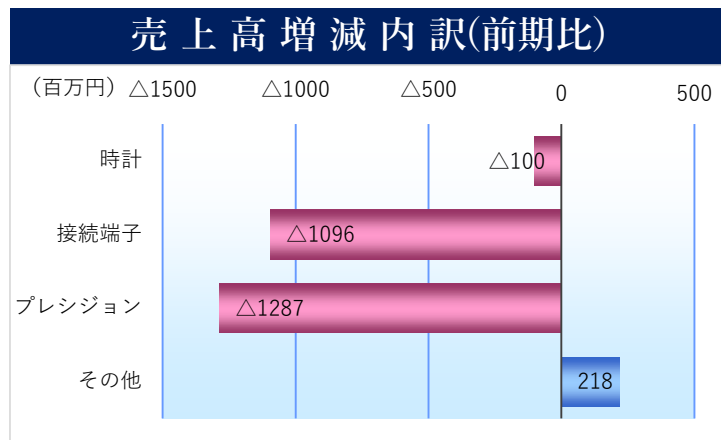
業績概況【セグメント別】

(百万円)	2020/3月期 (Q2)		2021/3月期 (Q2)		前期比	
	実績	% ※1	実績	% ※1	増減	%
売上高	14,305	100%	12,039	100%	△2,265	△15.8%
時計事業	4,179	29%	4,079	34%	△100	△2.4%
接続端子事業	4,511	32%	3,415	28%	△1,096	△24.3%
プレシジョン事業 ※2	5,443	38%	4,156	35%	△1,287	△23.7%
その他	170	1%	389	3%	+218	+127.9%
営業利益	10	0.1%	△367	△3.1%	△377	—
時計事業	△230	△5.5%	61	1.5%	+291	—
接続端子事業	331	7.4%	△13	△0.4%	△345	—
プレシジョン事業	136	2.5%	△177	△4.3%	△314	—
その他	23	14.0%	59	15.2%	+35	148.4%
調整額	△252	—	△297	—	△45	—

※1 売上高欄は構成比、営業利益欄は売上高営業利益率を表します。

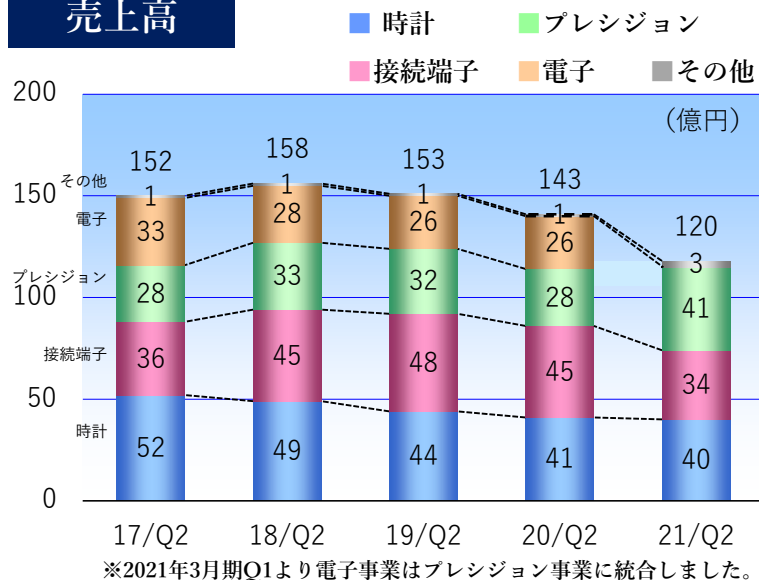
※2 2021年3月期Q1より電子事業はプレシジョン事業に統合しました。

2020年3月期Q2の実績はプレシジョン事業と電子事業の合算値を表します。

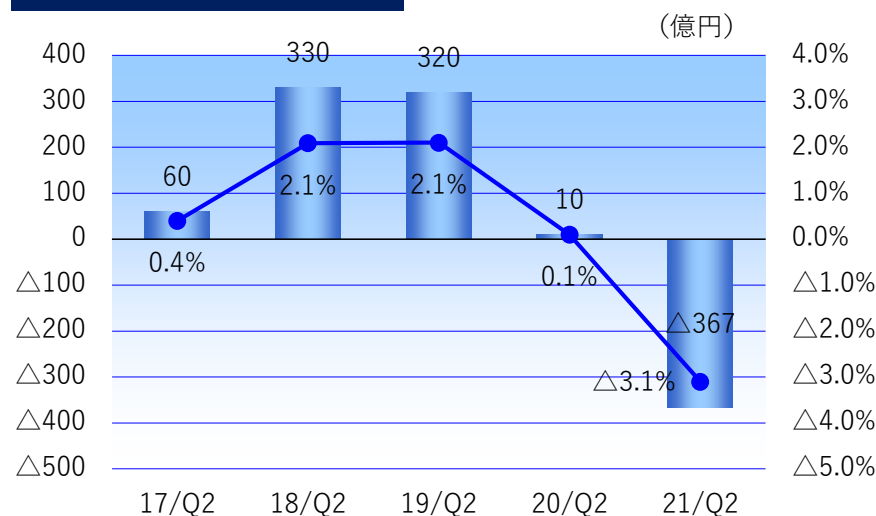


業績推移【セグメント別】

売上高



営業利益、利益率



総括

【売上高】

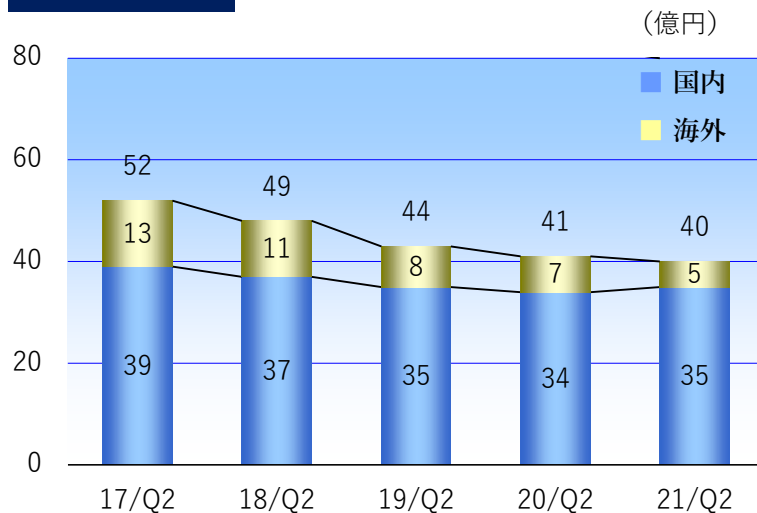
- 新型コロナウイルス感染症の影響はおおむね底を打ち、BtoC、BtoBともに受注は回復基調も、減収。

【営業利益】

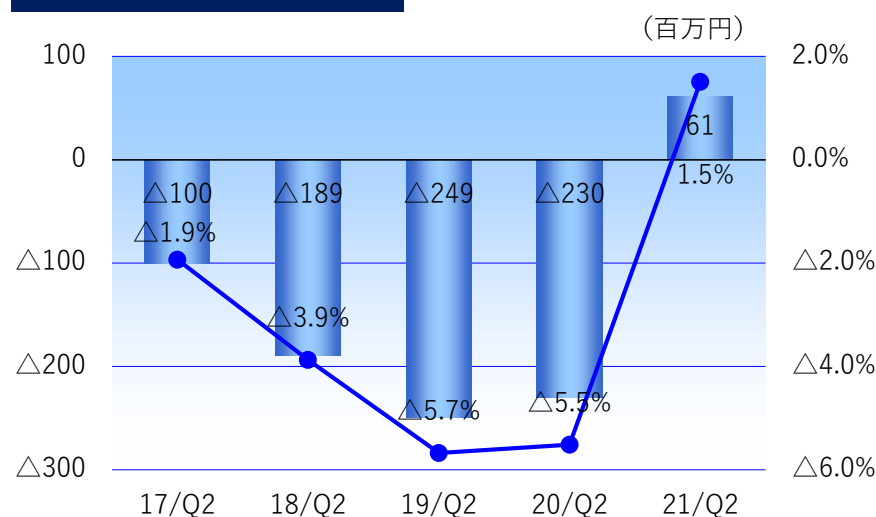
- 時計事業は国内販売において黒字転換。
- 接続端子事業・プレシジョン事業では、新型コロナウイルス感染症による影響は足元では底打ちも、期中を通しての売上高大幅減少の影響が大きく、全体では営業損失。

業績推移【時計事業】

売上高



営業利益、利益率



総括

【国内】

- 昨年来の事業改革による経費削減効果により、国内販売において黒字転換。USBファンや防災行政ラジオの販売が好調。

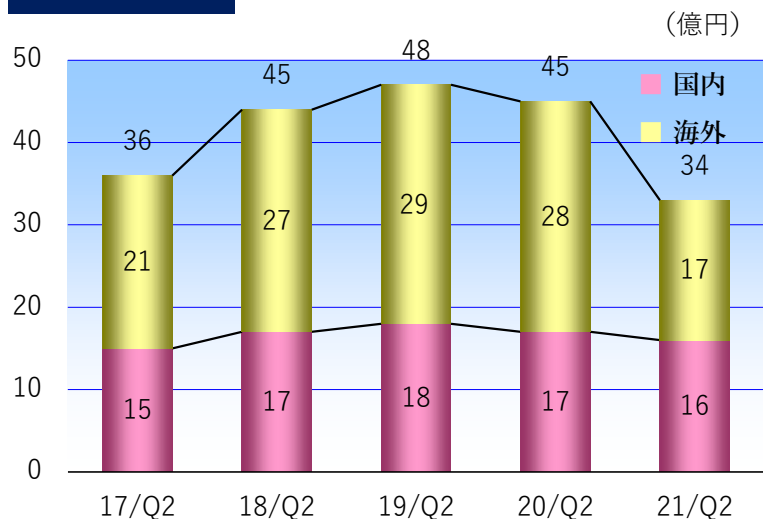
【海外】

- アジア地区において売上高の回復傾向がみられる一方、米国をはじめ欧州・中東においては売上高の低迷が継続。
- 製販両面での固定費削減、原価率改善は進んでいるものの、海外販売はわずかに営業損失。

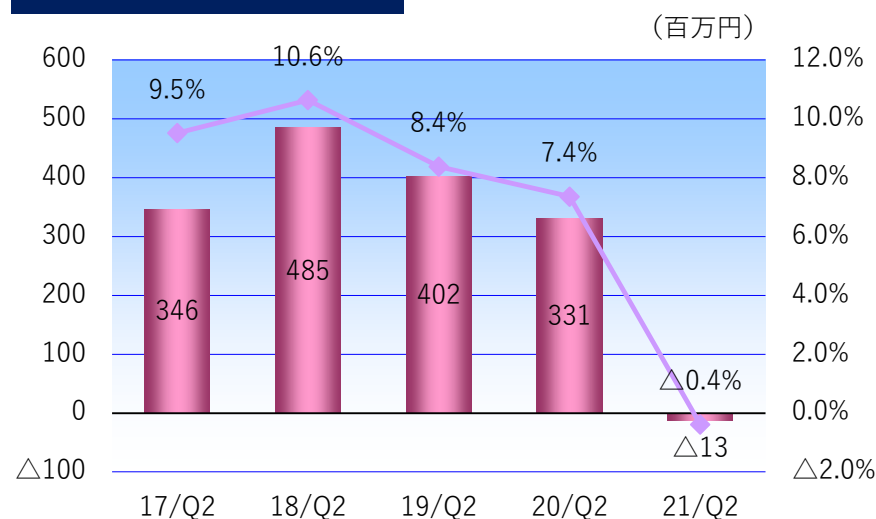
⇒ 時計事業全体では黒字転換成功。

業績推移【接続端子事業】

売上高



営業利益、利益率



総括

【国内】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により車載関連や家電向け端子類等の受注・売上が落ち込み、減収減益。

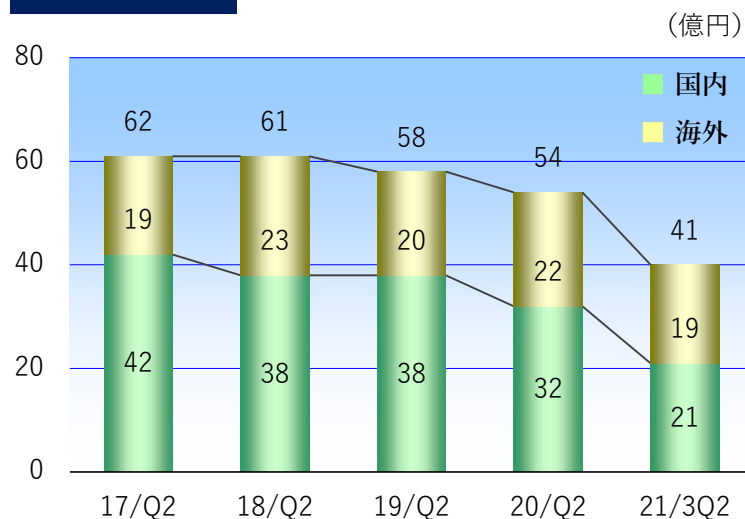
【海外】

- 中国ならびに東南アジア市場においては売上高は回復基調にあるものの、インドネシアでは新型コロナウイルス感染症の影響による受注・売上減少が継続しており、減収減益。

⇒ 接続端子事業全体では、のれんの償却により営業損失。

業績推移【プレシジョン事業】

売上高



※2021年3月期Q1より電子事業はプレシジョン事業に統合しました。2020年3月期以前の実績はプレシジョン事業と電子事業の合算値を表します。

総括

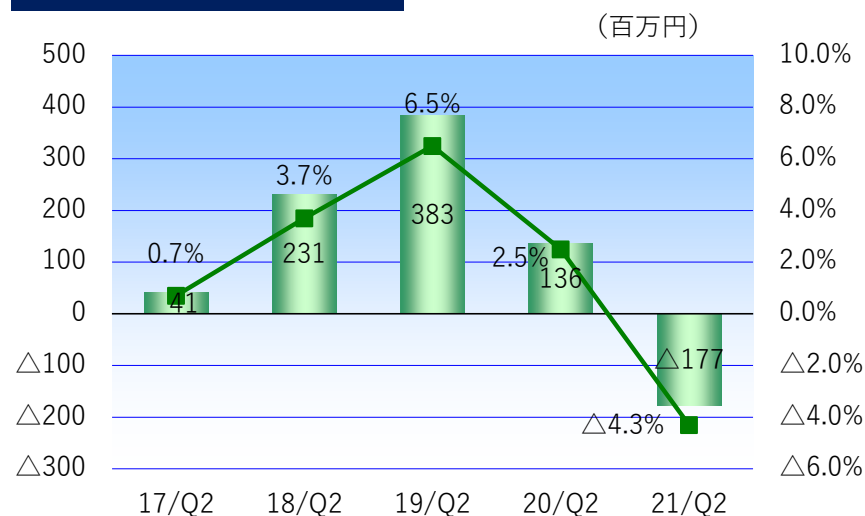
【国内】

- 昨年から続く米中貿易摩擦により工作機械部品及び自動車関連部品の受注・売上が大きく減少。新型コロナウイルス感染症に伴う新規受注案件の立上げ遅れなどが重なり、減収。
- 固定費削減等利益確保に努めるも売上減少の影響をカバーできず、営業損失。

【海外】

- ベトナム・中国での受注・売上が減少し、減収。
- 固定費圧縮策を進めたが、売上減少の影響により営業損失。

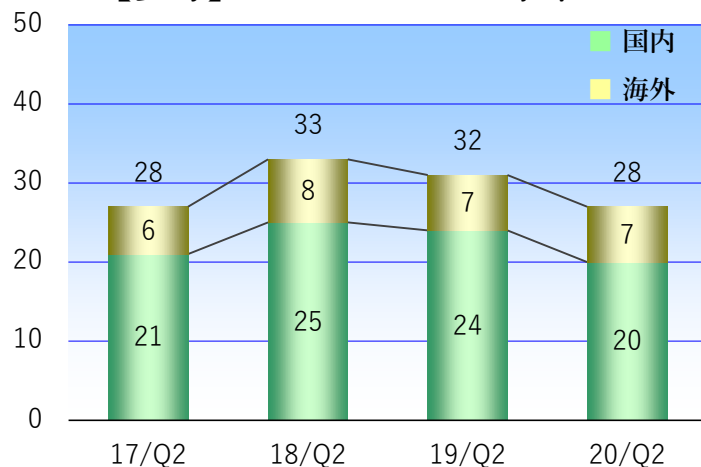
営業利益、利益率



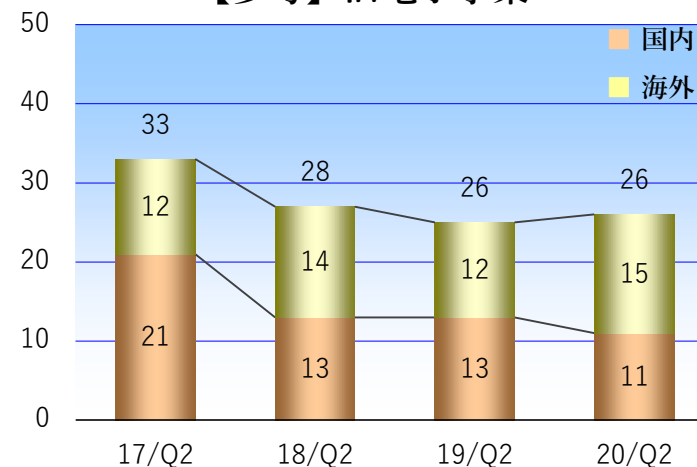
業績推移【プレシジョン事業】

売上高

【参考】旧プレシジョン事業 (億円)

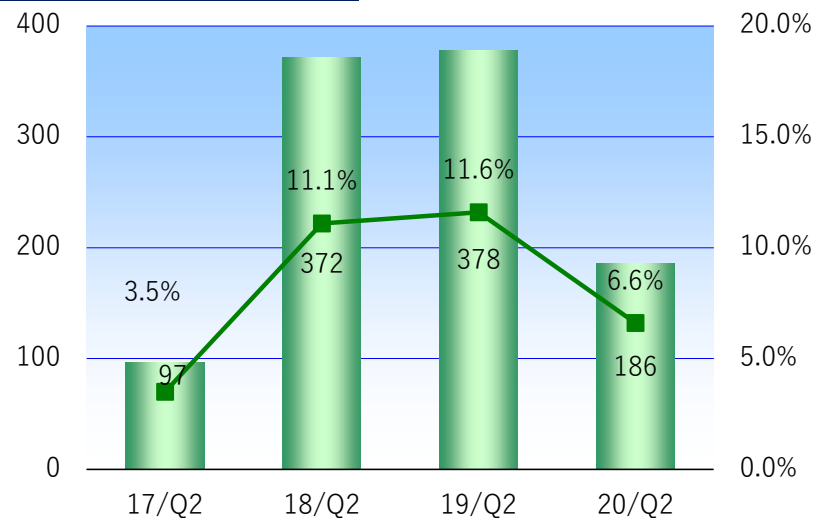


【参考】旧電子事業 (億円)

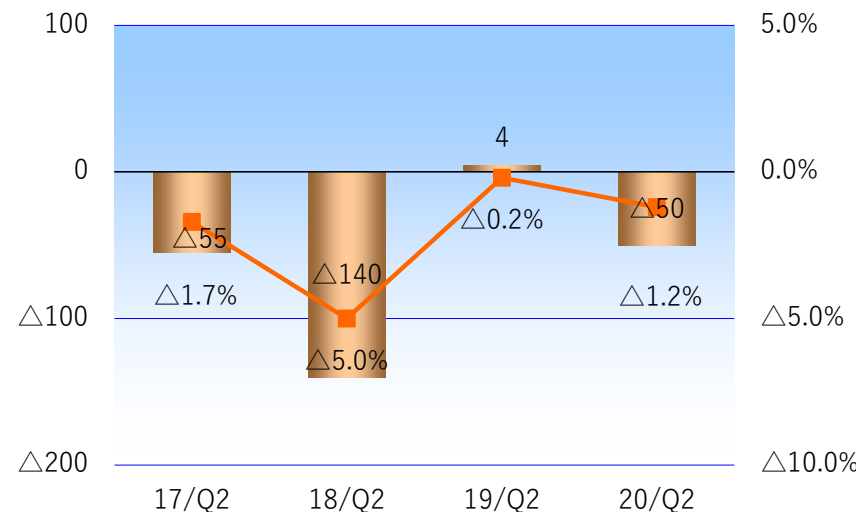


営業利益、利益率

(百万円)



(百万円)



貸借対照表

(百万円)

	20年3月末	20年9月末	20年3月末増減	主な増減要因
流動資産	22,767	21,723	△1,044	
現金及び預金	9,647	9,658	11	
受取手形及び売掛金	4,340	3,920	△419	
たな卸資産	6,909	6,415	△494	
その他	1,870	1,728	△141	
固定資産	14,350	13,807	△542	
有形固定資産	9,922	9,664	△258	
無形固定資産	1,138	964	△173	
投資有価証券	1,715	1,657	△58	
その他	1,573	1,521	△52	
資産合計	37,117	35,531	△1,586	
流動負債	7,007	6,389	△617	
支払手形及び買掛金	2,878	2,549	△329	
短期借入金及び1年以内返済長期借入金	593	981	388	
その他	3,536	2,859	△677	社債償還、早期退職関連費用の未払金
固定負債	4,139	5,705	1,565	
長期借入金	73	1,625	1,551	社債20億円 長期借入金に切替実施
社債	3,000	3,000	-	
その他	△7,213	△10,330	△3,117	
負債合計	11,147	12,095	947	
純資産	25,970	23,435	△2,534	
資本金	12,372	12,372	-	
資本剰余金	7,584	7,584	-	
利益剰余金	4,860	2,633	△2,227	希望退職者への早期退職金関連費用等
自己株式	△274	△275	-	
その他有価証券評価差額金	13	△40	△53	
為替換算調整勘定及びその他	1,413	1,161	△252	
負債・純資産合計	37,117	35,531	△1,586	
自己資本比率	69.9%	65.9%	-4.0%	

キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	2020/3月期 Q2	2021/3月期 Q2	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	304	751	446
投資活動によるキャッシュ・フロー	△829	△342	487
フリーキャッシュ・フロー	△524	409	934
財務活動によるキャッシュ・フロー	△112	△296	△184
現金及び同等物の四半期末残高	9,414	9,652	237

営業活動によるキャッシュ・フロー

	2021/Q2
減価償却費	502
売上債権の増減額（△は増加）	271
たな卸資産の増減額（△は増加）	417
仕入債務の増減額（△は減少）	△274

投資活動によるキャッシュ・フロー

	2021/Q2
有形固定資産の取得による支出	△352

財務活動によるキャッシュ・フロー

	2021/Q2
長期借入れによる収入	2,070
長期借入金の返済による支出	△137
社債の償還による支出	△2,000
配当金の支払額	△247

2. 今後の展開

通期業績予想

(百万円)	2020/3月期		2021/3見通し		前期比		当初計画 ※1	
	実績	売上構成比 利益率	実績	売上構成比 利益率	増減	%	実績	%
売上高	29,911	100%	25,000	100%	△4,911	△16.4%	32,800	100%
時計事業	8,764	29%	8,500	34%	△264	△3.0%	9,800	30%
接続端子事業	9,179	31%	7,100	28%	△2,079	△22.6%	10,500	32%
プレシジョン事業 ※2	11,608	39%	8,900	36%	△2,708	△23.3%	12,100	37%
その他	358	1%	500	2%	+142	+39.7%	400	1%
営業利益	△234	△0.8%	△730	△2.9%	△496	—	1,300	4.0%
時計事業	△417	△4.8%	110	1.3%	+527	—	200	2.0%
接続端子事業	614	6.7%	△120	△1.7%	△734	—	730	7.0%
プレシジョン事業	45	0.4%	△200	△2.2%	△245	—	770	6.4%
その他	55	15.4%	80	16.0%	+25	+45.5%	50	12.5%
調整額	△532	—	△600	—	△68	—	△450	—
経常利益	△22	△0.1%	△500	△2.0%	△478	—	1,420	4.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,139	△3.8%	△2,150	△8.6%	△1,011	—	920	2.8%
為替レート（期末日レート）	108.83	—	110.00	—	1.17	—	120.00	—

※1 当初計画：2019年5月30日発表『中期経営計画（2019.4～2022.3）』

※2 2021年3月期Q1より電子事業はプレシジョン事業に統合しました。

2020年3月期の実績はプレシジョン事業と電子事業の合算値を表します。

生活用品

【時計事業】

- ・国内外における加湿器・USBファン等の売上拡大と新販路開拓
- ・防災行政ラジオ販売体制の再構築
- ・新商品開発の推進（OEM供給含）
- ・販路拡大はじめとするアイ・ネクストジーイー社とのシナジー創出
- ・製品ラインナップの見直し（在庫削減・型数の効率化）



精密部品

【接続端子事業】

- ・電気自動車、ハイブリットカー、自動運転関連製品の販売強化による主要品種の売上確保
- ・インサート成形品の受注獲得（自動車電動化の拡大に伴いインサート成形品の需要増加）
- ・コイルアッセンブリの受注拡大



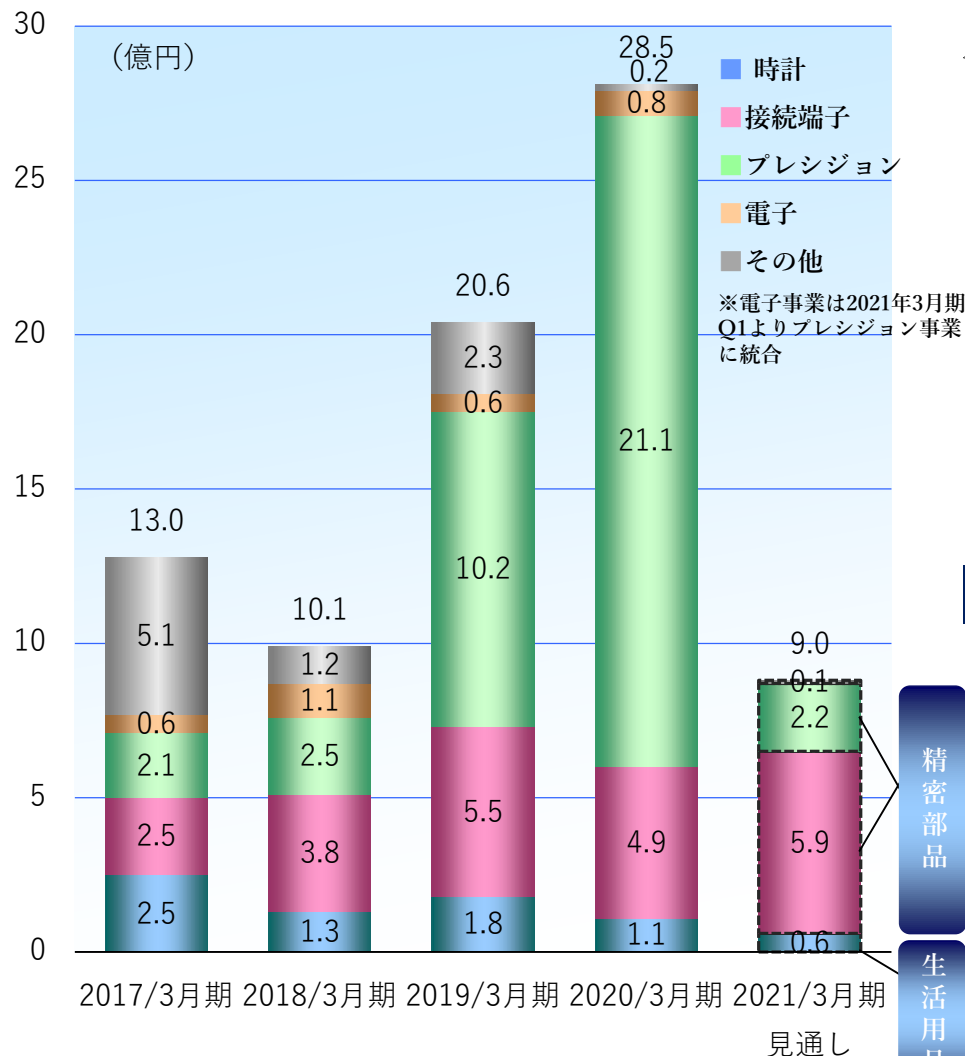
【プレシジョン事業】

- ・車載カメラ向け樹脂製品の売上拡大
- ・成形～組立まで、一貫生産品の獲得
- ・高難度材料、高難度加工製品の受注（金属部品加工含）



設備投資・減価償却費

設備投資

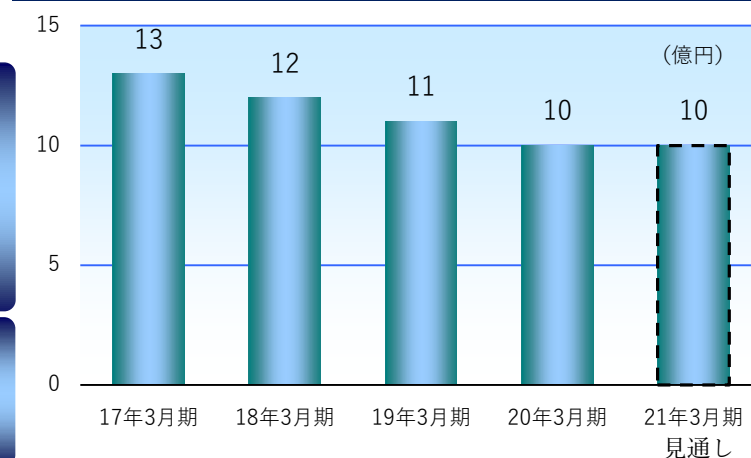


設備投資（通期）見通し

(億円)

生活用品		
(時計)	0.6	金型
精密部品	5.9	プレス機、加工機、成型機
(接続端子)		五所川原新工場建設費用、固定資産修繕
精密部品	2.2	プレス機、加工機、成型機
(プレシジョン)		固定資産修繕
その他	0.1	固定資産修繕
合計	9.0	

減価償却費



3. 三社合併の概要

リズム
グループ

リズム時計工業
時計事業

東北リズム
プレシジョン事業

リズム協伸
接続端子事業

ALL RHYTHM

人材・技術・設備・資金を結集、最適な活用！
事業部制を廃止、機能別組織へ

生産本部

国内 4 工場・海外 5 工場

管理本部

経営企画・管理
システム

内部監査室

『ガバナンス強化』

『インフラの統一』

『共通部門の効率化』

『人員の最適化』

営業本部

生活用品 G・精密部品 G
海外 3 販社

品質保証部

コンプライアンス推進・リスク管理室

新しい R H Y T H M 事業状況



生活用品

- ・時計より名称変更、快適生活品の売上拡大
- ・防災行政ラジオ、USBファン製品、加湿器等、快適生活品参入
- ・時計の構造改革、製品絞り込みで採算良化
- ・生産効率改善、モノづくり力の向上

BtoC



2020年発売モデル シルクイーウィンドモバイル2/9ZF028RH

精密部品

- ・自動運転関連、ハイブリットカー、車載カメラ向け製品増加中
- ・幅広いメーカーとの繋がりから将来のビジネス開拓
- ・プレス、成型設備、その他関連設備の有効利用
- ・部品から組立まで一気通貫型のビジネス体制化
- ・日本品質でグローバル生産展開を推進中

BtoB

シルクのような霧と
アロマの香りで楽しむ
コンパクト加湿器
「MIST100」



例えばこんなところに...

In these familiar places, for example...

プラスチック部品 (鏡筒)
Plastic parts (lens tubes)

センシングカメラ
Sensing camera



プレス部品 (オリフィスプレート)
Stamper parts (orifice plates)

エンジン内 燃料噴射装置
Fuel injection systems in engines

各種端子
Terminals

パワートレイン電源、
車載充電器、
カーオーディオ、
ドアミラー開閉制御
Powertrains, car audio,
door mirror opening/
closing controllers



ソレノイドコイル
Solenoid Coil

エンジン内 バルブタイミングシステム
Valve timing systems in engines

4. 再発防止策の取り組み

1 発覚

2018年11月、中国工場（麗声東莞）の資金繰り悪化に対する社内調査にて会計処理および購買取引の適切性に疑義が生じる。
⇒特別調査委員会による調査（2019年1月～3月）

2 調査結果

2つの不適切な会計処理が発覚。いずれも利益見通しと実績の乖離を隠すために現地トップ層が指示。

①標準原価操作：売上原価を減らし、在庫を増加させて利益を改ざん。
（決算への影響は2年間で440百万円）

②利益操作：費用の前倒し計上や、事業部間の利益を調整。
（会社全体の決算への影響は軽微）

※当初疑義のあった不適切な購買取引については認められず。

3 再発防止策

2019年3月、再発防止策を公表。麗声東莞だけでなく、グループ全体のガバナンスを強化する必要性から、リズム時計、麗声東莞の両面にて再発防止策を実施。

2020年3月期末日における財務報告に係る内部統制は有効である旨を開示。
（2020年7月29日付「内部統制報告書」）

課題	再発防止策	進捗状況
ガバナンス	製造、生産管理、管理部門の担当 役員分離	2019年4月1日付で役員体制見直し。
	董事会等の運用強化 (執行機能と監督機能の分離)	2020年5月、現地社長以外の役員は本社および関係会社から派遣する非常勤役員とする役員体制へ変更。
	業務改善活動の実施	2019年7月より購買業務に関しチェック機能が働く体制を整備、9月には新規購買先の選定ルールを改訂。
	管理部門の独立性確保	2019年7月より経理規程を改訂し、運用開始。
	計画的な人事ローテーション・ 人事評価の実施	適時適切に組織改編、人事ローテーションを実施。更なる透明性・公平性をねらい人事評価制度の改訂も検討。
	原価計算・原価管理フローの整備	原価計算の業務プロセスにおいて生産部門が関与する余地を排除。新ERPシステム稼働に向け2019年7月より外部コンサルタントを入れ更なる改善活動中。
コンプライアンス	コンプライアンス推進部門を設置	2019年6月1日付で業務部門から独立したコンプライアンス推進部門を設置。
	コンプライアンス推進会議の開催	2回/月実施。
	社内意見箱設置、内部通報制度整備	2019年6月設置。
モニタリング	モニタリング部門を設置	2019年6月1日付で内部監査科（コンプライアンス推進部門と兼任）を設置。 2020年10月より専任としている。
社内環境 コミュニケーション	社内意見箱設置	2019年6月設置。
	従業員との情報共有	部・科会を定期的で開催し、意識改革を実施。

再発防止策の取り組み リズム

課題	再発防止策	進捗状況
ガバナンス	ガバナンス強化プロジェクト推進	外部コンサルタントと共に海外主要子会社を往査し、改善策を立案、実行。
	適切な財務管理体制の構築	2019年7月、グループ統括部を新設。（現在は経営企画部に業務引継） 2019年7月より経営指標（PL項目のみでなく経営リスク重点）、2020年5月よりグループ共通KPIのモニタリングを実施。取締役会での報告のほか、関係会社でも活用。
	グループ会社経営幹部の育成	11月より次期幹部候補育成研修開始。 2020年3月、経営幹部任命基準・評価制度を取締役会で決議し、4月に評価実施。
コンプライアンス	トップ方針発信	社内報、朝礼等で発信。2020年1月より社内報トップメッセージの英文併記を開始。
	コンプライアンス研修の実施	2019年12月までに国内外の全29拠点で完了。
	内部通報窓口の拡充	2019年8月より海外子会社からも通報できるよう多言語に対応した内部通報制度に拡充。
モニタリング	リスクに応じた内部監査に転換	2019年5月、標準監査方式からリスクに応じた内部監査に転換。グループ共通の規程整備等、グローバル内部監査態勢の構築を推進。
	専門スタッフの育成強化	ガバナンス強化プロジェクトに参加し、ノウハウや知識を習得。
グループ内環境 コミュニケーション	役員と社員とのコミュニケーションの機会を創出	2020年度中のタウンミーティングを計画中。
	グループ全体での双方向型のコミュニケーション推進	朝礼や取締役会など各種会議等で社長、役員より指示。

合併し、“リズム株式会社”として発足



10月1日、国内基幹3社であるリズム時計、東北リズム、リズム協仲が合併し、商号を「リズム株式会社」に変更いたしました。

創立70周年

11月3日、リズム時計工業の創立から70周年を迎えました。これを記念して、各種記念事業を実施いたしました。

◆ 記念ロゴ ◆



名刺、ホームページやFacebookのトップページ等で使用しています。

◆ 社章バッジ ◆



グループの全従業員に社章バッジを配布しました。

◆ 記念製品の販売 ◆



薩摩切子時計 RHG-S85

美術装飾時計の様式美を感じる品格ある逸品。刻み続けた歴史の息吹を感じられるオーセンティックなデザイン。

希望小売価格 1,500,000円（税抜）

※受注生産

美の匠ガラス工房弟子丸との共同開発商品



香蘭社

雲散らし799／瑠璃富士絵799

名門「香蘭社」の伝統的な絵柄による有田焼の時計。

希望小売価格 200,000円（税抜）
香蘭社との共同開発商品

時の記念日100周年企画展

2020年は時の記念日100周年です。「時の記念日100周年企画展『時』展覧会2020」が上野の国立科学博物館で開催され、当社からはカックー時計、からくり時計、有田焼置き時計等の当社の代表的なクロックを出展しました。



時計の寄贈

創立50周年の2000年より毎年6月10日の時の記念日に埼玉県内の児童施設へ時計の寄贈を行っています。

これまでの
寄贈件数 **860**施設

* 2000年～2020年の合計
* 児童施設のみカウント（役所への寄贈含まず）



リズムグループとしての総合力を結集し、更なる収益力の向上へ

- 1 グループガバナンスの強化
 - 子会社管理体制の再構築
 - 経営幹部人材の育成
- 2 収益力の強化
 - 海外売上高の拡大
 - 車載関連売上高の拡大(重点投資による拡大)
 - 時計事業・電子事業の収益力向上
 - グループ間事業の連携強化による新ビジネスの創造
- 3 リズムブランド価値向上
 - ステークホルダーとの関係強化
- 4 ROEの改善
 - 「事業利益確保」「資産効率化」を両輪に財務体質強化とROAの改善を推進。

リズムグループとしての企業価値を高め続けていく

2021年度数値目標

(計画為替レート@120円)

()内は2018年度実績

売上高営業利益率 5.0% (2.5%)

営業利益 17億円 (7.6億円)

ROE 4.3% (▲0.9%) ※ROA 3.0% (▲0.7%)

連結売上高 340億円 (310億円)

海外売上高比率 50% (37.6%)

ステークホルダーとの関係

お客様との関係

人々に喜ばれる製品・サービスの提供

従業員との関係

活力ある企業風土と働きがいのある職場作り

社会・地域との関係

社会の一員としての積極的な活動

株主・投資家との関係

企業価値向上と投資家とのコミュニケーション

(参 考) 中期経営計画方針 ～ロードマップ～ RHYTHM

重点投資を含めた成長戦略による安定収益の確保へ

≫2016年度～2018年度≫

≫2019年度～2021年度≫

≫2022年度以降≫

グループガバナンスの強化

子会社管理体制の再構築

経営幹部人材の育成

収益力強化

海外売上高の拡大 38.0% 海外売上高比率 50.0%

車載関連売上高の拡大 74億円 売上高 110億円

2.5% 営業利益率 5.0%

グループ間事業の連携強化による新ビジネスの創造

リズムブランド価値向上

ステークホルダーとの関係強化

ROEの改善(資産の効率化)

▲0.9% ROE 4.3%

▲0.7% ROA 3.0%

カ
テ
ゴ
リ
ー
No.1
の
実
現

企
業
価
値
の
向
上

≫2016年度～2018年度≫

≫2019年度～2021年度≫

≫2022年度以降≫

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものです。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

更に、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

広報 I R 担当窓口

リズム株式会社
経営企画部 相澤
作田

電話 048-643-7241（経営企画部直通）

リズムホームページ お問い合わせフォーム

https://www.rhythm.co.jp/contact/ir_other_form.php